

2021 年 12 月 24 日

The Emerging Markets Weekly

奇策と介入を重ねて TRY が急反発

本年は大変お世話になりました。
次回は 2022 年 1 月 7 日発刊です。
来年も宜しくお願いします。

新興国市場：先週末 17 日、アジア時間の新興国通貨は、欧米中銀のイベント一巡で手掛かりに欠け小動き。欧米時間に入ると上値の重い展開となった。FRB 理事が 3 月の利上げの可能性に言及し、警戒感が高まった。TRY は一時対ドルで 17 リラを突破、トルコ中央銀行 (CBRT) の介入でやや戻すも前日比▲4.5%となった。週初 20 日、アジア時間の新興国通貨は概ね軟調。オミクロン株を巡る行動規制の動きや米財政政策の不透明感が手掛かりとなった。KRW や THB の下げが目立った。欧米時間の新興国通貨はまちまちな動き。TRY は一時 18 リラを突破もエルドアン大統領の TRY 建預金保護措置の発表に、前日比 +23.1%と大幅に反発した。片や、BRL は下落。21 日、新興国通貨は総じて小動き。オミクロン株の影響を見極めようとの姿勢が続いた。南アフリカでは入院者数や死者数の急増が伝えられ、ZAR が反落。一方、TRY は前日比 +6.7%と続伸。前日発表された預金保護措置を巡り、財務省がその詳細を明らかとした。22 日、アジア時間の新興国通貨はまちまち。依然、市場に様子見ムードが強かった。欧米時間に入ると新興国通貨は上昇。欧米株の続伸にリスク心理が改善した。TRY は前日比 +3.7%と 3 日続伸。BRL が同 +1.5%と 3 日ぶりに反発、ZAR も大きく反発した。南アフリカの国立伝染病研究所の研究者は、オミクロン株の重症化するリスクが低い可能性があるとして報告した。23 日、アジア時間の新興国通貨は前日の流れを引き継ぎ底堅い動き。THB は 4 営業日ぶりに反発。KRW や IDR も堅調な推移となった。欧米時間も新興国通貨は底堅い動きを継続。TRY は前日比 +6.0%と 4 日続伸。中央銀行が間接的に介入しているとの見方が報じられた。RUB や MXN、ZAR も堅調に推移した。

アジア：中国人民銀行 (PBoC) は 20 日、2021 年 12 月の最優遇貸出金利 (LPR、ローンプライムレート) の 1 年物を 5bp 引き下げ、3.80%にすることを決定した。引き下げは 2020 年 4 月以来。強まる景気の減速感に対応した。タイ中央銀行 (BOT) は 22 日、全会一致で政策金利を 0.50%に据え置くことを決定した。据え置きは 13 会合連続。オミクロン株については、経済見通しへの大きなリスクであり注視が必要であると述べた。

中東欧・アフリカ：ロシア中央銀行 (CBR) は 17 日、政策金利を 100bp 引き上げ 8.50%にすることを決定した。利上げは 7 会合連続。インフレ率は同行の目標 (前年比 +4.0%) を上回っていると指摘し、追加利上げを示唆した。トルコのエルドアン大統領は 20 日、TRY 建預金の保護措置を表明。トルコ財務省が 21 日、その詳細を発表した。2021 年 12 月 20 日までに USD、EUR と GBP 預金を既に保有している個人が、それを TRY 建ての定期預金に転換すれば制度の適用対象となる。TRY 建て定期預金に支払われる利息と元本が、満期終了時に外貨換算した額と比べて小さければ、差額が補填される。

ラテンアメリカ：23 日にメキシコとブラジルそれぞれで発表された 12 月前半の消費者物価指数 (CPI) は、いずれも 11 月後半と比べて減速した。

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト
堀 亮大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(メキシコ)

利上げペースの加速を迫られた Banxico

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

メキシコ中央銀行(Banxico)は 16 日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を 50bp 引き上げて 5.50%とすることを決定した(図表 1)。利上げは 6 月以降、5 会合連続。声明文によれば、ディアス・デ・レオン総裁含め 4 名が 50bp の利上げを主張、1 名は利上げ幅を 25bp にとどめるべきと主張した。会合を控えて、エコノミストの多くは 25bp の追加利上げを予想していた。

Banxico が利上げペースを加速させた理由は、足許でのインフレ圧力が予想以上に強まっていることやそれが長期化しうることへの警戒感がさらに高まったことにある。11 月の消費者物価指数(CPI)は前年比+7.37%と前月(同+6.24%)から大きく加速(図表 1)。9 か月連続で同行の目標レンジ(前年比+2%~+4%)を上回るとともに、水準としては 2001 年 1 月以来の高さとなっている。コア CPI も同+5.67%まで加速しており、こちらも 2001 年 11 月以来の水準である。

先々のインフレ見通しも上振れが続いている。Banxico の公表した最新の CPI 見通しでは、足許の 2021 年 10~12 月期から 2023 年 1~3 月期にかけての 6 四半期について、前回会合時点から上方修正が加えられている(図表 2)。また、コア CPI の見通しについては、2022 年 4~6 月期から 2023 年 10~12 月期にかけての修正幅が、ヘッドラインベースの CPI のそれを上回った。同行の従来予想以上に、インフレ圧力がより広範に長期化するとの認識に至ったことが読み取れる。

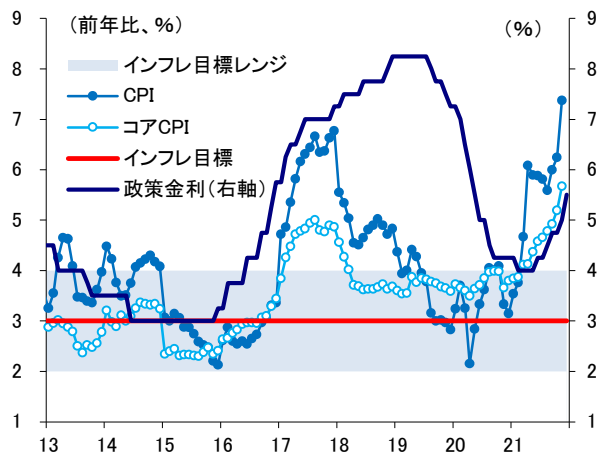
実際、Banxico はインフレのリスクバランスについて、従来からの上方に傾いているとの認識とともに、「さらに悪化している(deteriorated further)」と警戒感を強めている。また、今回の声明文からは、物価上昇を促してきた要因は一時的なものとする、との以下の一文も姿を消した。

The shocks that have increased inflation are largely considered to be transitory.

次回会合(2 月 10 日開催予定)に向けては、従来通り、インフレ及び Banxico のインフレ見通しに関する予測軌道に影響を与えうるあらゆる要因とともに、実際のインフレ圧力の動向を徹底的に監視していくとした。高いインフレ率そのものが、将来のインフレ率やインフレ見通しに上昇圧力を加えうるとの問題意識は変わらない。その上で、Banxico は、インフレ率が予測期間の最後までに(by the end of the forecast horizon)同行の目標値(前年比+3%)に落ち着いてくるよう、利上げペースを調整していくことになる。

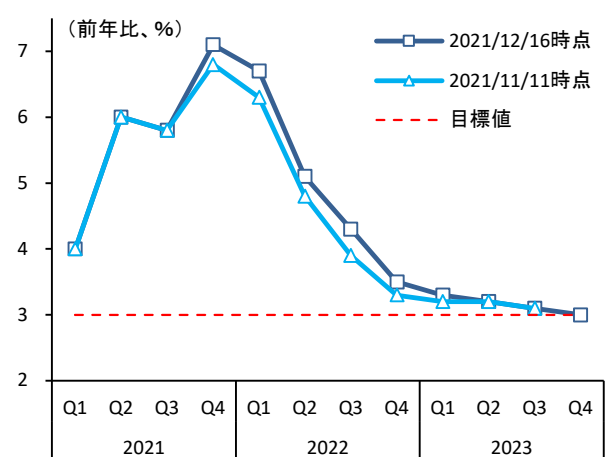
こうした中、年初に Banxico の新総裁に就任するロドリゲス財務公債省次官の政策の舵取りが注目される。ロペスオブラドル大統領との近さが市場では懸念されており、同大統領の拘る財政均衡と景気下支えの必要性とのバランスを取るべく、金融政策が運営されるのであれば、市場の波乱要因となりうる。

図表 1:政策金利とインフレ率



出所:メキシコ中央銀行、地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2:Banxico の CPI 見通し



出所:メキシコ中央銀行、みずほ銀行

市場概観(新興国)

11 月のファンドフロー

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

2021 年 11 月の新興国ファンドへの資金フローは+14.8 億ドルと 5 か月連続で資金流入となった。資金流入額は前月 (+78.9 億ドル) から縮小した。株式ファンドには +69.7 億ドルと 5 か月連続で資金が流入したものの、債券ファンドは▲54.8 億ドルと 3 か月連続の資金流出となり流出額も拡大した。

地域別ファンドへの資金フローでは、アジア(日本除く)に 5 か月連続で資金が流入。債券が資金流出となるも、株式への資金流入が支えとなった。東欧・中東・アフリカからは資金が流出。債券が 5 か月ぶりの資金流出、株式も資金が流出した。ラテンアメリカは 9 か月連続の資金流出で、流出額も拡大。債券が 3 か月連続の資金流出、株式は 3 か月ぶりの資金流出となった。

国別ファンドへの資金フローでは、中国の資金流入が目立った。債券が資金流入に転じたほか、株式の流入額もやや拡大した。過去平均との比較では、フィリピンとトルコへの資金流入も大きかった。前者は株式が、後者は株式と債券の両方が寄与した。一方、インドは資金流出に転じた。株式への流入額は拡大も、債券が大幅な資金流出に転じた。台湾は前月の反動もあってか、資金出に転じた。また、前月に 7 か月ぶりの資金流入となったロシアも流出に転じた。債券からの資金流出が続くほか、株式も資金流出に転じた。

なお、12 月 15 日までのデータを基に 12 月に入ってから資金フローを試算したところ、新興国ファンドからの資金流出額が昨年 5 月以来の規模となっている。債券には資金が戻りつつあるものの、株式から大規模な資金流出が生じている。国・地域別ファンドでは、インドや韓国、台湾で株式からの資金流出が目立つ。また、中国では債券からの資金流出が生じている。

(注) 各国・地域別のファンドフローのグラフについては、12 月 20 日付通貨ニュースでご確認いただけます。

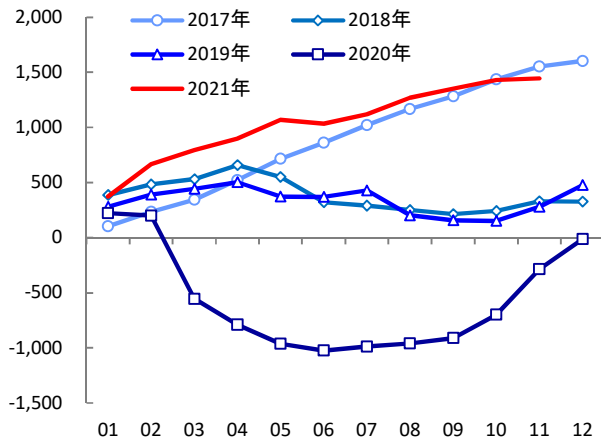
図表 1: 新興国各国・地域のファンドフロー(月次)

	11月 (%)	zスコア (過去5年)		11月 (%)	zスコア (過去5年)
新興国	0.05	-0.3	インドネシア	-1.34	-0.1
アジア(日本除く)	0.37	0.2	インド	-0.39	-0.6
中国	1.58	0.4	東欧・中東・アフリカ	-0.85	-0.5
韓国	0.04	-0.1	ロシア	-1.61	-0.5
台湾	-1.21	-0.3	トルコ	4.83	0.8
シンガポール	0.83	0.2	南アフリカ	0.08	-0.4
フィリピン	8.35	1.9	ラテンアメリカ	-1.53	-1.2
タイ	-1.07	-0.4	メキシコ	-1.77	-0.7
マレーシア	-2.75	-0.5	ブラジル	-0.02	-0.1

注: スコアは株式ファンドと債券ファンドへの資金流入額の前月比変化率で算出。

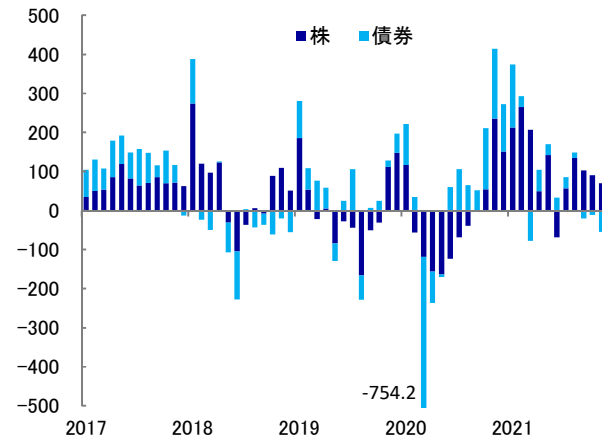
出所: EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 2:新興国(年初来累計額、億ドル)



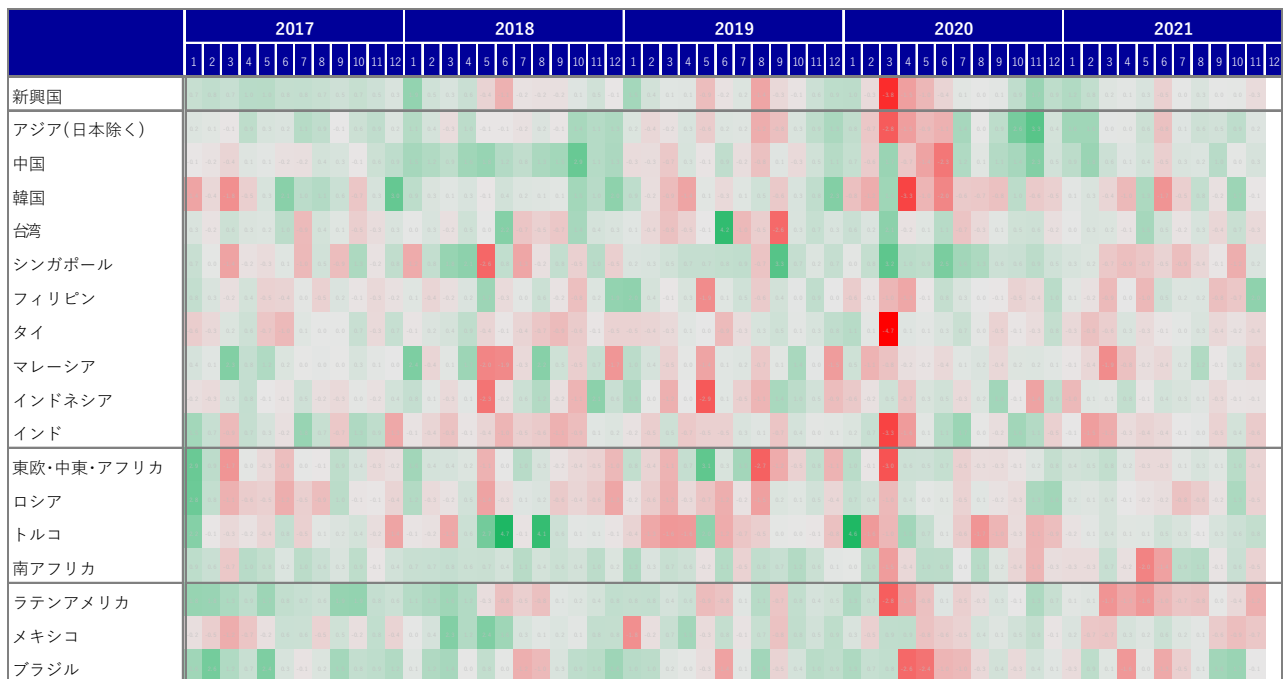
出所:EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 3:新興国(月次、億ドル)



出所:EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 4:新興国各国・地域別ファンドフローのヒートマップ



注:過去 5 年のデータを基に算出した Z スコアを用いて作成。赤は資金流出、緑は資金流入を表す。色が濃いほど平均値からの乖離が大きい。

出所:EPFR、Macrobond、みずほ銀行

市場概観(インドネシア)

12 月金融政策会合～FRB に追随した政策運営は来年以降に

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は 16 日に開催した金融政策会合で、政策金利の 7 日物リバースレポレートに 10 会合連続で 3.50%に据え置いた(図表 1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も現状維持となった。ブルームバーグの事前予想では 27 人のエコノミスト全員が据え置きを予想していた。引き続き、BI が 16 年に 7 日物リバースレポレートを主要政策金利とした以降では過去最低の金利水準となっている。

声明文にて、世界経済は前回 11 月会合時点から引き続き、堅調な回復を見せていると総括された。一方で、リスク要因としては欧州を中心とするオミクロン株の拡大に伴う景気減速懸念や米国や一部先進国が金融政策の正常化に舵を切ったことによって、新興国から資本流出の可能性が浮上する点をリスク要因として指摘した。国内経済については、デルタ株感染者数減少以降、行動制限が緩和されたことによって、今後も景気は上向いていくとの見通しを示した。21 年については前年比+3.2～4.0%の成長に留まるとしたものの、22 年の成長見通しについては、同+4.7～5.5%と見込んでいる。

一方で、消費者物価を見ると前回 11 月会合後からも軟調地合いとなっている(図表 2)。11 月時点での年初来物価上昇率は前年比+1.30%に留まっており、内訳をみても依然として資源高や供給制約の影響が出ていないと言える。こうした状況からペリーBI 総裁は来年には過剰流動性の調整を開始することを示唆したものの、消費者物価に上昇の兆しが見られるまで緩和的な金融政策を維持する意向を示した。

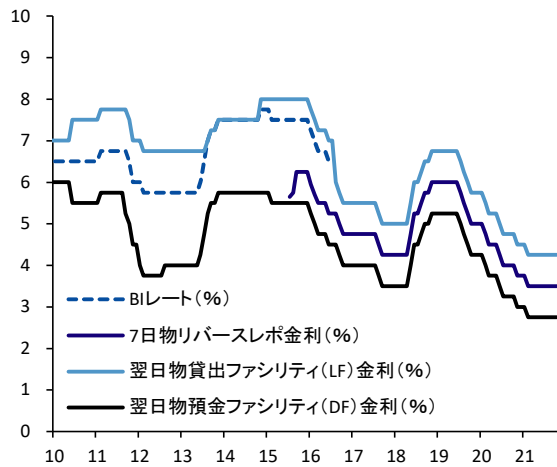
BI はここまでコロナ禍における景気減速に対応するかたちで景気回復を下支えする方針を一貫してきた。一方、今後に向けては世界各国の金融政策がコロナ禍前に巻き戻される動きが本格化することが見込まれる中、金融市場の安定化や IDR の堅調さを維持することも視野に入れた運営に移行することを示した。BI は国債購入プログラムをはじめ前例のない金融緩和を実施してきたが、量的緩和措置の縮小や停止の動きに乗り出し、将来的には利上げを見据えるといった行程で金融政策の正常化に着手していくものと見込まれる。

IDR 相場は引き続き安定的な推移となっている(図表 4)。この要因としてはやはり資源価格高騰の恩恵を受け貿易黒字規模が拡大している点が多い(図表 3)。経常収支はコロナ禍においてやや改善の傾向が見られたが、内需の段階的な改善に伴い輸入も増加することが見込まれ、アフターコロナの段階では剥落していくと見込まれる。更に消費の中心が財からサービスに移るにしたがって、将来的には資源価格にも調整が入る可能性があり、この点も IDR の下落リスクと捉えたい。

また、こういった動きの裏で米国は着実に金融緩和の正常化を進めることとなりそうだ。12 月 FOMC ではテーパリングの終了前倒しの他、来年内での利上げ回数増加が示唆された。こうした状況が意識されて、対米金利差(インドネシアー米国)は縮小していくものと考えられ、一層ドルの選好が進みやすくなると予想される。ASEAN 地域における本格的な景気回復は 22 年後半以降を見込むが、こうした動きと合わせて各国中銀が FRB に追随した金融政策正常化に着手出来るか否かは来年の相場動

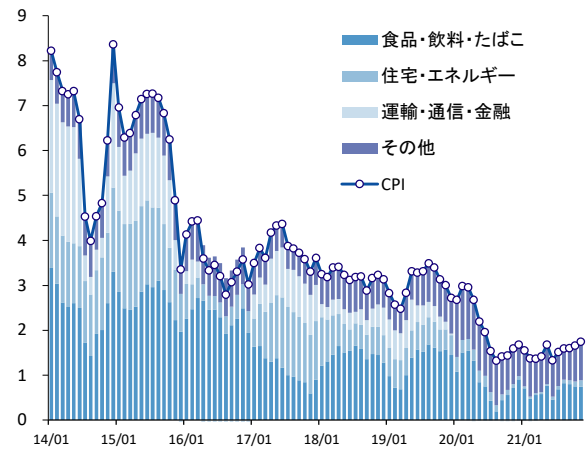
向を見据える上で重要なテーマとなっていくだろう。

図表 1: 政策金利の推移



出所: インドネシア銀行、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率(前年比%、%ポイント)



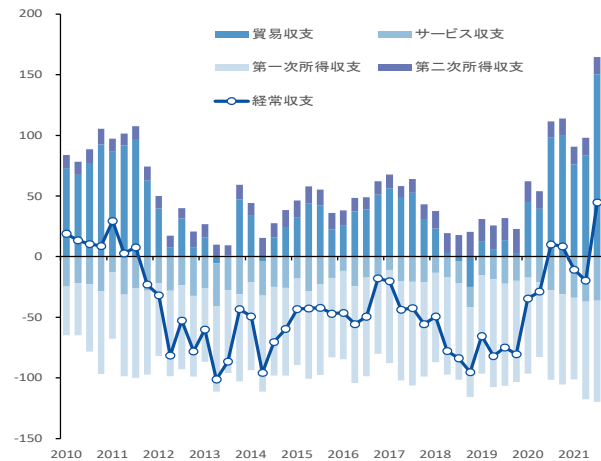
出所: インドネシア中央統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 3: IDR 相場動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 4: 経常収支(億ドル)



出所: インドネシア銀行、CEIC、みずほ銀行

市場概観(フィリピン)

12 月金融政策会合～今後のインフレ動向を注視

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

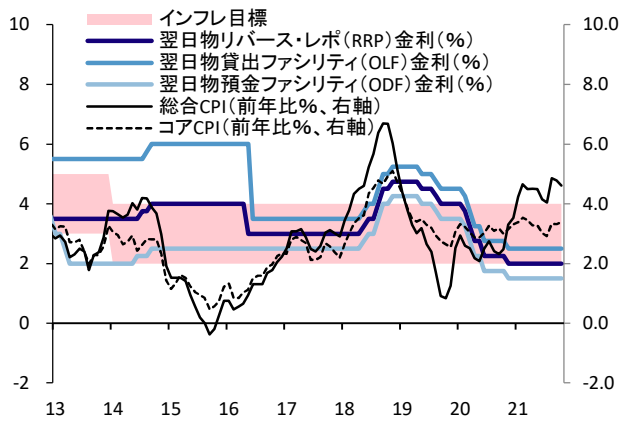
フィリピン中央銀行(BSP)は16日に開催した金融政策会合で、政策金利の翌日物リバースレポレートを超えて過去最低の2.00%に据え置いた(図表1)。政策金利は9会合連続で据え置きとなった。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートもそれぞれ2.50%と1.50%とした。なお、ブルームバーグの事前予想でも現状維持の予想が有力であった。

声明文では、国内経済の動向について、ワクチン接種の加速や行動制限の緩和を背景に個人消費をはじめ回復基調は続いている点を述べ、先行きに関しても、企業活動や市場心理の改善を追い風に信用動向も持ち直しが進んでいるとの見解を示した。一方で、米国をはじめとして金融政策の正常化が進展することで新興国市場からの資本流出に繋がる可能性やオミクロン株の感染拡大リスクは景気の下振れリスクに繋がることとして警戒感を示している。

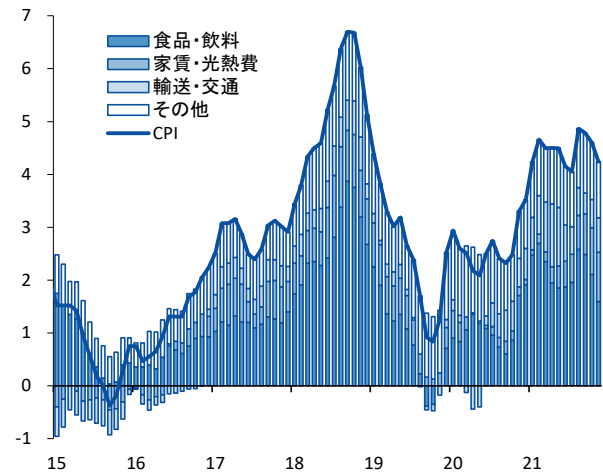
また、今回会合ではインフレ高進リスクが改めて強調された。11月の消費者物価指数は前年比+4.2%で、BSPのインフレ目標(2~4%)を上回る状況に変わりはない(図表2)。ジョグノBSP総裁は会見で、インフレ率が高水準な理由について食品供給に引き続き制約があることや輸送費の値上げが影響している点を説明。フィリピン国内を直撃した大型の台風22号(アジア名:Rai)の影響で今後にかけての食料品価格の高騰やサプライチェーンの混乱の長期化によって物価が高止まる展開には警戒が必要である。21年においては物価目標を超えることは確実な情勢となっているが、供給制約の解消に伴って22年と23年には物価は徐々に抑制されるとし、23年には目標の中央値に収束していくとの見解に変更はなかった。

今後の政策運営に関して、ジョグノ総裁は現行の金融緩和を継続することで、今後数四半期の景気の勢いを維持できると述べ、足許の供給制約などを勘案しても、インフレは制御可能なため、政策手段を辛抱強く維持する余地があるとした。オミクロン株の拡大によって景気回復が遅れる可能性を考慮して、前回11月会合に続いて経済を下支えすることを優先する意向を示した格好だ。

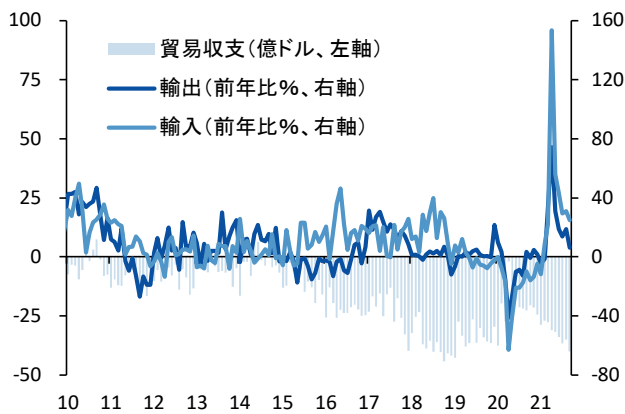
今年のPHPは年後半以降、デルタ株の拡大と米国のテーパリング早期着手のヘッドラインに軟調地合いが続いた。また、世界経済の回復に伴う資源価格の高騰に伴って貿易赤字幅が拡大し、特に原油価格の上昇はPHP相場にも相応の影響を与えたように見られる(図表3、4)。フィリピン経済は前述の通り改善の途上にあり、物価動向とともにその経過を注視する必要があるが、年初以降も引き続き資源価格やドル側の要因に左右される面が大きいと予想する。12月FOMCの決定では早期のテーパリング終了と利上げ着手が濃厚となる中、ドルの選好が続くと考えたい。一方、PHPが値を戻すのは少なくともコロナ禍からの景気回復が見込まれる来年春先以降となるのではないかと。

図表 1: 消費者物価とインフレ目標(%)


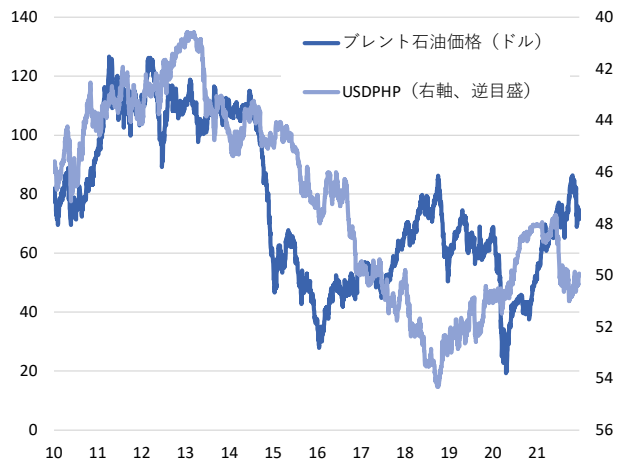
出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の推移(前年比%, %ポイント)


出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: フィリピン貿易収支


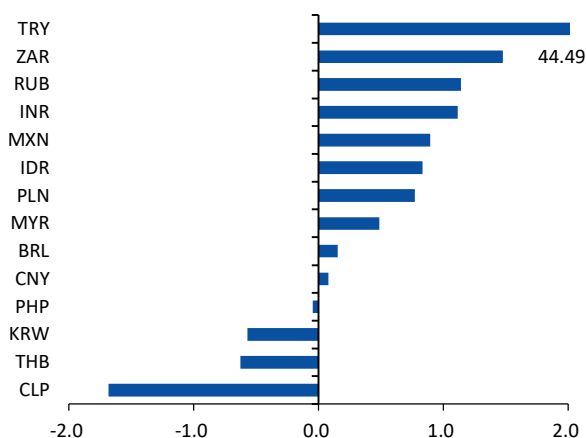
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: 原油価格と PHP 相場


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

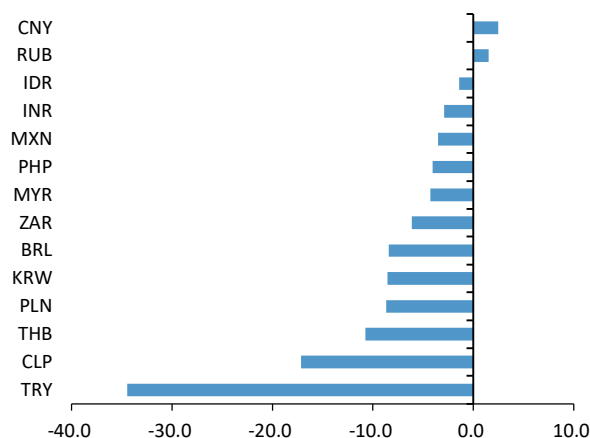
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



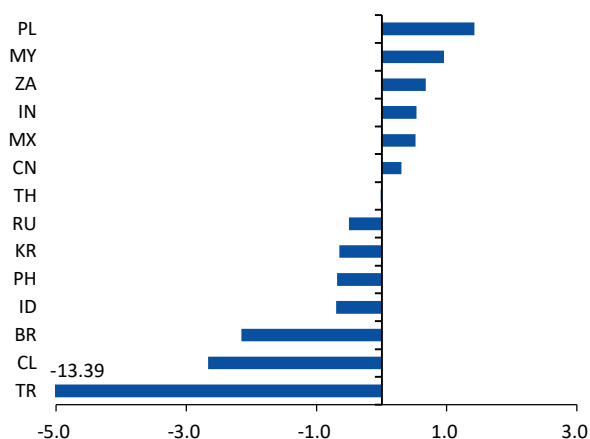
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



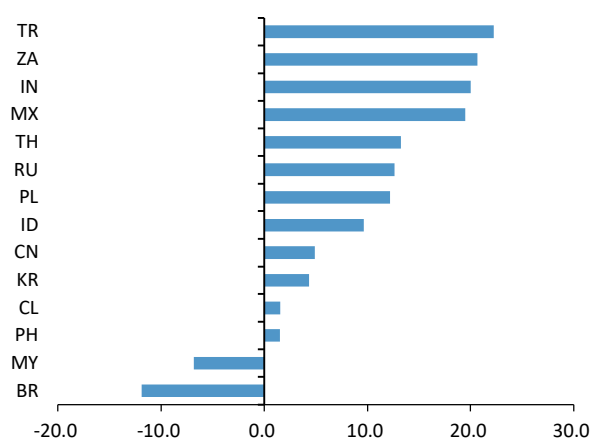
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



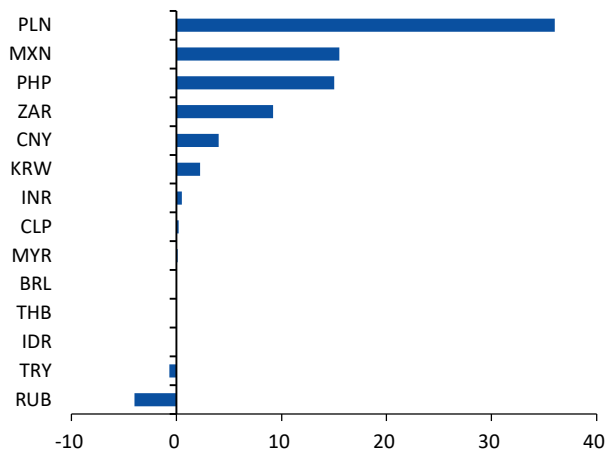
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

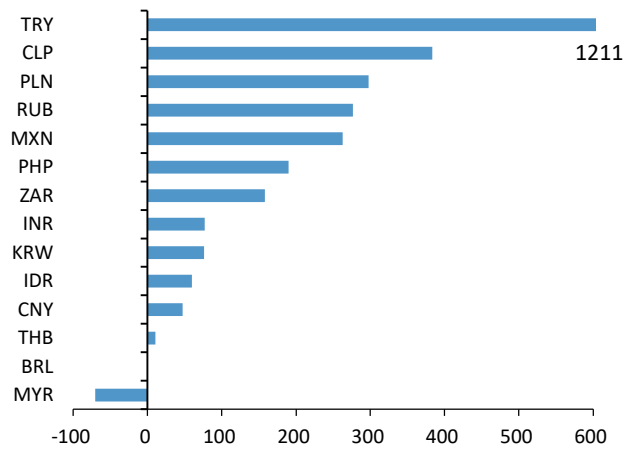
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

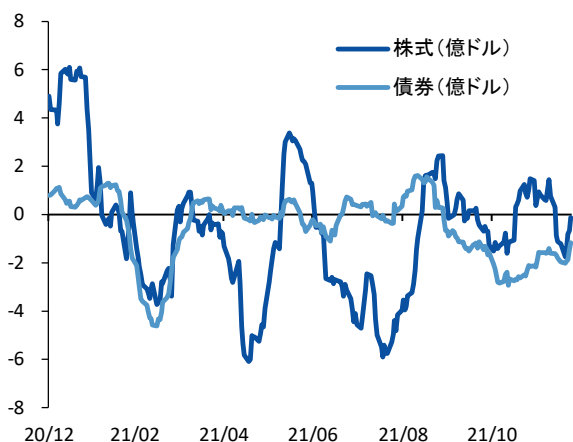


注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

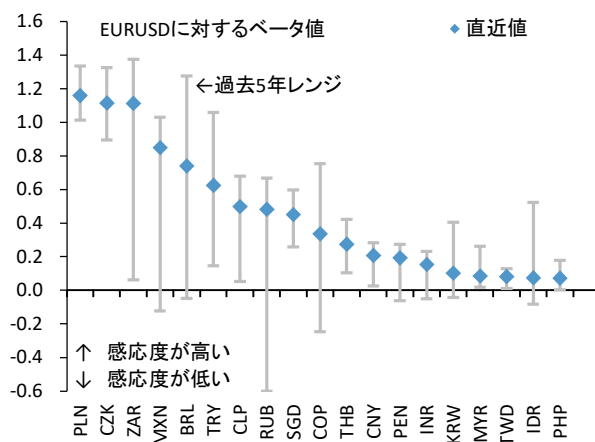
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



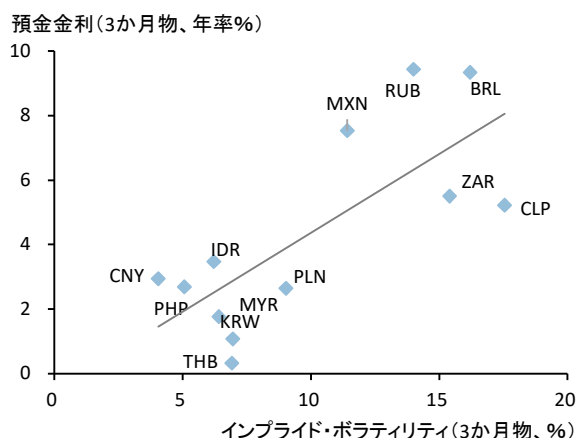
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



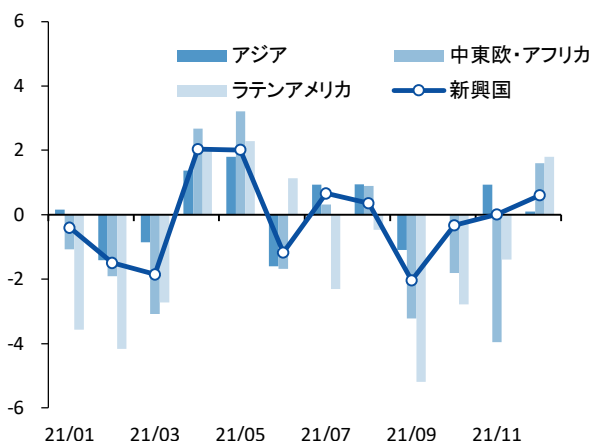
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



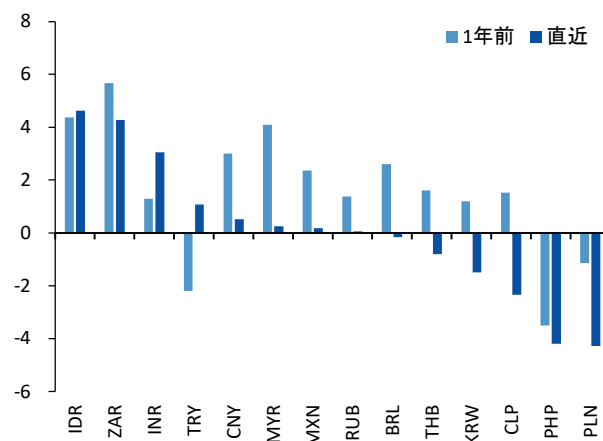
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
12月20日 (月)	タイ	貿易収支(通関ベース)	-\$600m	\$1019m	-\$370m	--
20日 (月)	台湾	輸出受注(前年比)	5.2%	13.4%	14.6%	--
20-27日	フィリピン	総合国際収支	--	\$123m	\$1141m	--
21日 (火)	韓国	PPI 前年比	--	9.6%	8.9%	--
22日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	0.50%	0.50%	0.50%	--
23日 (木)	シンガポール	CPI(前年比)	3.4%	3.8%	3.2%	--
23日 (木)	台湾	鉱工業生産(前年比)	9.9%	12.2%	11.3%	--
24日 (金)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	--	-64.3b	--
24日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	3.2%	--	2.9%	--
24日 (金)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	13.8%	--	16.9%	--
28日 (火)	韓国	消費者信頼感	--	--	107.6	--
28日 (火)	マレーシア	輸出(前年比)	29.0%	--	25.5%	--
29日 (水)	韓国	景況判断(製造業)	--	--	88	--
30日 (木)	韓国	鉱工業生産(前年比)	3.7%	--	4.5%	--
30日 (木)	タイ	国際収支・経常収支	-\$800m	--	-\$1058m	--
30日 (木)	タイ	貿易収支	--	--	\$3804m	--
31日 (金)	韓国	CPI(前年比)	3.6%	--	3.7%	--
31日 (金)	中国	非製造業PMI	--	--	52.3	--
31日 (金)	中国	製造業PMI	49.9	--	50.1	--
中東欧・アフリカ						
12月22日 (水)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	5.8%	7.0%	7.1%	--
22日 (水)	ロシア	PPI 前年比	27.0%	29.2%	27.5%	--
24日 (金)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	--	99.3%	--
27日 (月)	トルコ	設備稼働率	--	--	78.1%	--
27日 (月)	トルコ	実体経済信頼感指数(季調前)	--	--	108.4	--
29日 (水)	ロシア	マーケット・ロシア製造業PMI	--	--	51.7	--
29日 (木)	ロシア	GDP(前年比)	--	--	4.3%	--
29日 (木)	ロシア	失業率	4.3%	--	4.3%	--
29日 (木)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	4.3%	--	4.1%	--
29日 (木)	ロシア	CPI(前年比)	--	--	8.4%	--
29日 (木)	ロシア	マーケット・ロシアPMIサービス業	--	--	47.1	--
30日 (木)	ロシア	経常収支	--	--	40800m	--
31日 (金)	トルコ	貿易収支	-5.30b	--	-1.44b	--
31日 (金)	南ア	貿易収支(ラント)	23.5b	--	19.8b	--
ラテンアメリカ						
12月20-28日	ブラジル	税収	157250m	157340m	178742m	--
22日 (水)	メキシコ	小売売上高(前年比)	5.7%	5.3%	5.9%	--
22日 (水)	ブラジル	経常収支	-\$6100m	-\$6522m	-\$4464m	--
22日 (水)	ブラジル	海外直接投資	\$3800m	\$4588m	\$2493m	--
23日 (木)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	0.8%	0.8%	1.2%	--
24日 (金)	メキシコ	貿易収支	-1771.5m	--	-2701.0m	--
24日 (金)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	1.0%	--	0.9%	--
27-28日	ブラジル	登録雇用創出合計	226,935	--	253,083	--
28日 (火)	ブラジル	融資残高	--	--	4497b	--
29日 (水)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前月比)	0.6%	--	0.0%	--
30日 (木)	ブラジル	純債務対GDP比	--	--	57.6%	--

注: 2021 年 12 月 24 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2021年 1～12月(実績)	SPOT	2022年 3月	6月	9月	12月	2023年 3月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	6.3424 ~ 6.5793	6.3703	6.45	6.48	6.50	6.53	6.55
香港ドル (HKD)	7.7510 ~ 7.8047	7.7990	7.80	7.81	7.82	7.83	7.84
インドルピー (INR)	72.269 ~ 76.318	75.244	76.5	76.0	74.8	74.2	73.0
インドネシアルピア (IDR)	13865 ~ 14628	14233	14550	14750	14400	14250	14100
韓国ウォン (KRW)	1080.08 ~ 1200.44	1187.84	1200	1210	1220	1230	1240
マレーシアリングギ (MYR)	3.9957 ~ 4.2483	4.2000	4.23	4.22	4.19	4.17	4.14
フィリピンペソ (PHP)	47.615 ~ 51.133	50.044	51.8	51.4	50.9	50.0	50.1
シンガポールドル (SGD)	1.3157 ~ 1.3746	1.3583	1.38	1.37	1.35	1.33	1.33
台湾ドル (TWD)	27.483 ~ 28.663	27.739	27.7	27.8	28.0	28.2	28.4
タイバーツ (THB)	29.84 ~ 34.00	33.50	34.0	33.8	33.0	32.0	31.6
ベトナムドン (VND)	22625 ~ 23164	22953	23250	23150	22800	22600	22650
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	69.2199 ~ 78.0400	73.3736	74.0	75.0	77.0	75.0	79.0
南アフリカランド (ZAR)	13.4122 ~ 16.3668	15.6521	16.5	17.0	16.3	17.2	16.7
トルコリラ (TRY)	6.8974 ~ 18.3633	11.3597	12.5	13.0	13.5	14.0	14.5
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	4.8942 ~ 5.8789	5.6769	5.53	5.60	5.85	5.70	5.80
メキシコペソ (MXN)	19.5494 ~ 22.1550	20.6454	20.5	20.6	20.8	21.0	21.2
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	15.731 ~ 18.070	17.955	17.98	18.06	18.15	18.22	18.32
香港ドル (HKD)	13.233 ~ 14.813	14.668	14.87	14.98	15.09	15.20	15.31
インドルピー (INR)	1.402 ~ 1.553	1.524	1.52	1.54	1.58	1.60	1.64
インドネシアルピア (100IDR)	0.732 ~ 0.815	0.804	0.797	0.793	0.819	0.835	0.851
韓国ウォン (100KRW)	9.210 ~ 9.910	9.631	9.67	9.67	9.67	9.67	9.68
マレーシアリングギ (MYR)	25.548 ~ 27.599	27.198	27.42	27.73	28.16	28.54	28.99
フィリピンペソ (PHP)	2.136 ~ 2.310	2.283	2.24	2.28	2.32	2.38	2.40
シンガポールドル (SGD)	77.79 ~ 85.29	84.22	84.06	85.40	87.41	89.47	90.23
台湾ドル (TWD)	3.655 ~ 4.153	4.123	4.19	4.21	4.21	4.22	4.23
タイバーツ (THB)	3.264 ~ 3.561	3.415	3.41	3.46	3.58	3.72	3.80
ベトナムドン (10000VND)	0.4446 ~ 0.5089	0.4984	0.50	0.51	0.52	0.53	0.53
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.364 ~ 1.647	1.559	1.57	1.56	1.53	1.59	1.52
南アフリカランド (ZAR)	6.657 ~ 8.181	7.311	7.03	6.88	7.24	6.92	7.19
トルコリラ (TRY)	6.170 ~ 15.265	9.971	9.28	9.00	8.74	8.50	8.28
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	18.478 ~ 22.632	20.160	20.98	20.89	20.17	20.88	20.69
メキシコペソ (MXN)	5.018 ~ 5.667	5.541	5.66	5.68	5.67	5.67	5.66

注: 1. 実績の欄は 2021 年 12 月 23 日まで。SPOT は 12 月 24 日の 7 時 40 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。